

ナカラ回廊開発・整備プログラム

無償資金協力、円借款、技術協力プロジェクト等(2010年3月～実施中)

ナカラ回廊とは、インド洋に面するモザンビーク北部のナカラ港を玄関口とし、モザンビーク北部と、マラウイ、ザンビアといった近隣の内陸国を結ぶ地域の動脈です。これは、モザンビークが有する豊富な鉱物・エネルギー資源の輸送路としても、また、農業開発が進めばその潜在的な可能性が大きい農産物の輸送ルートとしても重要です。日本は、ナカラ回廊開発の推進のため、回廊と周辺地域を結ぶ道路・橋梁^{きょうりょう}改修やナカラ港の整備・電力等のインフラ整備を支援するとともに、農業開発、教育、給水支援などにも積極的に取り組み、包括的な回廊開発支援を行っています。これらを総合して「ナカラ回廊開発・整備プログラム」といいます。

インフラ整備では、国道上の350kmの改修事業である円借款「ナンプラークアンバ間道路改善計画」や国道上に13ある橋梁の新設・架け替えを行う協力である無償資金協力「イレークアンバ間道路橋梁整備計画」などを実施中です。また、教育関連支援では、無償資金協力「ナンプラ州中学校改善計画」を実施しています。この協力は、モザンビーク国内で中等教育への就学率が低い北部ナンプラ州において、中学校4校(合計教室数49教室)を新設し、事務機器、教育用機材など必要な機材を供与するものです。

ほかにも、給水関連支援としては、「ニアッサ州持続的^{サステナブル}地方給水・衛生改善プロジェクト」があります。この協力は、これまで大規模な支援が行われていなかったニアッサ州を対象に給水・衛生改善を図るとともに、ニアッサ州公共事業局をはじめとするモザンビーク側関係機関の計画・実施管理・モニタリングの能力強化を目指すものです。日本は、様々な分野の支援を通じて、ナカラ回廊の総合開発を目指しています。(2014年8月時点)



ほかのドナーにより建設された施設の維持管理状況を確認する小島寛明専門家。本プロジェクトでも類似のハンドポンプ付き深井戸給水施設約30基の建設が予定されている(写真：JICA)